



題御 巖上松

御製

苔むせる岩根の松のよろつよも

うこきなき世は神をもるらむ

皇后御歌

大内の山の岩根にしけりゆく

こまつの子代もみそなはずらむ

東宮御歌

ふきざわく嵐の山のいはねまつ

うこかぬ千代のいろそしつけき

東宮妃御歌

うこきなくさかゆる御代を岩の上の

松にたとへて誰か仰かぬ

怒、自愛、嫉妬の情

松本孝次郎

恐怖の情に、いさ怒の情に付て述べんとす。怒の情は恐怖の情よりもむしろ早く著しく現はる。初は主に自分の食物に對する慾望から生ずるので、即ち其望の満足されぬ時に起る。時間は永く續かぬけれどもあらはれ方は激烈である。